

酒々井町

郷土研究会会報

第120号

平成18年4月1日  
酒々井町郷土研究会  
広報部

酒々井町今昔

川島 俊彦

三、清光寺の由緒  
千葉一族が小田原の北條一族と運命を共にして無血落城してからは大禍もなく町は存続したわけです。

徳川幕府の成立後、家康は東金へ鷹狩に何度か来ています。その時清光寺の無算和尚によって、上本佐倉の清光寺に家康の父松平広忠の歯骨墓があると聞かされ急拠当地を訪れ、御供養料五十石(田畑)を寄贈され「厚朴」を廟に御手植されました。そして「町が永久に繁栄するよう」加護証を出され一泊したのとことです。

今は御手植の木も化石化し、何代目かの木が葉を繁らせています。

四、妙胤寺

本佐倉の字猿楽場にあり、開山は正安元年(一二九九)で真言宗

ですが後に日蓮宗に改宗しました。日蓮宗の信徒であった加藤清正の像が祀られており、私どもが小さい頃は「清正公さま」と言っていて、縁日には大太鼓が叩かれ参拝者が沢山集まりました。境内では相撲大会などが行われ、出店も見られ賑やかなものでした。

清正公さまの関係か、本堂の入口には寺でありながら「注連縄」が張られ、紙四手が下げられています。

五、吉祥寺

本佐倉字根古谷にあり、本尊は「麻耶夫人」の像で弘法大師に縁があります。「麻耶夫人」はお釈迦様の仏母であるとのこと。上本佐倉の方から根古谷の方へ降りる坂道は道幅四メートルぐらいますが「ミヤマ坂」と言います。

現在は通勤の車が沢山迂回して来ますので朝夕は危険です。

六、トウゲ皿  
本佐倉字山王に「弥兵衛屋敷跡」と呼ばれる山林があります。戦後まもなく川島一族で開墾しました。その時「素焼のトウゲ皿」が沢山出てきました。全部割れてしまったので何気なく木の切り株の上に置いておきました。後の本佐倉城跡の発掘の時にも同じものが発見されています。これらは「燈明皿」や「酒宴の杯」の名残であるとのことでした。このことから推察すると、先祖がもとは「弥兵衛屋敷跡」に住んでいた、本佐倉城が出来た際に、御典医としては遠いので今の上本佐倉五番地へ引越したものの思われます。

佛母摩耶夫人身聖徳太子一ノ刀三禮御位



下総國印旛郡本佐倉村佛母山金剛吉祥寺

谷中界限を歩く

古川 好夫

厳寒の師走十四日、下町の面影が残る谷中界限の名勝めぐりと散策を楽しみました。参加者二十七名、京成日暮里駅下車、緩やかな坂道を過ぎ路地に入ると小さな家が立ち並び下町の風情を漂わせていました。歩かうちにお寺の多いことに気づきました。聞けば三十数寺あるとのこと。こんな狭い地域に寺院が集中しているのがとても不思議でした。

先ず朝倉彫塑館を訪ねました。こは日本彫塑界の最高峰である朝倉文夫先生のアトリエ兼住居だったものを台東区が寄贈をうけ「朝倉彫塑館」として一般に公開しているとのこと。代表作「墓守」など数多くの作品、先生自身が設計されたアトリエ、粹を凝らした日本庭園や数奇屋造りの佇まいなど見学しました。

大名時計博物館では掛時計、檣時計など十種類にも及ぶ大名時計が展示されていました。



大名時計

これらは故上口愚郎氏が生涯にわたり収集したもので江戸時代の貴重な文化遺産です。大名時計という名前は大名以外には持てなかつた時計だからと愚郎氏が命名したものだそうです。

浄名院は寛文六年(一六六七)に上野寛永寺三十六坊のひとつとして開かれたもので明治九年三十八世妙運大和尚が仏恩に報い、民衆を救うため八万四千体の石地藏尊建立を願され現在四万八千九十九体が造像奉納されています。四万八千九十九体のお地藏様にお参りをして今日の名勝探訪を終わりました。

谷中界限にはところどころに江戸があり、明治があり、大正があつて今回の探訪は当時の人々のざわめきが聞こえてくるようなひとときでした。

初詣の明治神宮

竹下 康子

原宿駅を降りるともう目の前が明治神宮であつた。

今日、一月十八日は酒々井町の郷土研究会の皆さんと初詣に明治神宮へ出かけてきた。

神宮橋を渡って少し行くと、まず最初に大鳥居が目につく。ここから明治天皇と昭憲皇太后を祀る本殿までは五百メートルほどの長い玉砂利の参道が続く。元日には日本一を誇る参詣客であふれていたようだが、一月も半ばを過ぎた今日はさほどの賑わいはない。

参道の周囲の鬱蒼とした大樹の森のため、ここには街を疾駆する車の騒音も無ければ、ざわざわした人の雑踏もない。ただきれいに澄んだ大自然の生命が静かにゆつくりと流れているだけだ。

本殿の前にゆつくりと手を合わせ静かに世の平安とみずからの健康を祈る。

参詣の済んだ私たちは、再び参道を原宿駅へと向う。原宿の街はかつては竹の子族など



明治神宮

で賑わった若者の先端の街だった。今もその面影を残している竹下通りを途中から左手の細い道に入り二十メートルほど進んでゆくと、小さなたずまいの東郷神社がある。この神社の祭神は日露戦争の時に海軍聯合艦隊司令長官として活躍した元帥東郷平八郎であるが、時と共にどんだん忘れられていつているようだ。そんな由来などについての青木会長の話を聞いた後、ここで散会することになった。

今日にも粉雪が舞いそうな寒い冬の一日であった。

七草粥を食べる会

白鷺老人クラブ 山内智香子

平成十八年二月十日、きさらぎの空は風も穏やかに、青く晴れわたり、会場で久し振りに皆様にお会いいたしましたことが何より嬉しく存じました。長年続いていきます郷土研究会の行事ですから友人会員をお誘いして参加させていただきました。

早春の初めのことで感動を覚える行事です。まだまだ山野の枯れ草の中で薬草といわれる七草を揃えることは容易でないと感じます。

説明案内に記されています。芹・薺・御形・繁縷・仏の座・苺・蘿蔔の写真入の解説は大変勉強になって時折時間を作り読み返しています。「幼い日の思い出が懐かしく家事をしながら、『七草なずな 唐土の鳥と日本の鳥と渡らぬ先に 何草はやす七草はやす』ストントントント」と歌って一人笑っています。献立表も時折参考にしたく存じます。

昨年役員の方が、古き歌人・俳人の作品を紹介して下さい、其の中の「み山には松の雪だに

消えなくに「都は野辺の若菜つみけり」(読人知らず)

「春日野の若菜つみにや」(カスガノ)

「袖ふりはへて人のゆくらん」(紀貫之)

と俳句の

「七草やまこと飢えたる」

日の記憶」(蝶衣)

「畑のもの足して」(紫江)

に何時の時代も変わらないことと感動しております。

十日は暦の上で初午の先勝とありよいお日柄でした。また来年の行事に参加したく存じます。よろしくお願い致します。

研究会役員の皆様、お手伝いされました方々に厚くお礼申し上げます。大変有難うございました。

会計報告	
七草粥を食べる会 (平成18年2月10日)	
参加者77名 招待者15名 計 92名	
会費 700円	
収入	700円×77=53,900円
祝儀 (会費として)	10,000円
計	63,900円
支出	材料費 43,633円
	諸雑費 12,215円
計	55,848円
	63,900-55,848=8,052
残	8,052円 (野草会計へ)

第三十回定期総会報告

平成十八年一月二十九日十三時三十分より中央公民館に於いて第三十回定期総会が開催されました。

来賓として小坂泰久町長、津田教育長、岩館社会教育課長ほかをお迎えして、平成十七年度事業報告と決算報告が承認され、続いて十八年度の事業計画案、予算案も承認されました。

小坂町長からいただいたご挨拶の要旨は次の通りであります。

「酒々井町郷土研究会第三十回総会おめでとう。当郷土研究会は歴史

も古く、また昨年は『酒々井の絵馬』カラー版を発行するなど活発な活動をされていることを大変嬉しく思っております。郷土史の研究は私も非常に興味をもっております。幸い、この町には双体道祖神や各神社仏閣の絵馬など自信を持って町内外に紹介できるものがあります。

散策コースの整備や広報パンフレットの見直しなどを行い、古きものと新しきものとの融合を工夫して、多くの人に訪れていただくことで町の活性化を図ることが大切であると考えております。」

総会はこのあと大沢博氏の運営委員新任の紹介があり閉会しました。

平成18年度役員・運営委員名簿

職名	氏名	電話
顧問	沖田善三郎	
会長	青木 朝次	
副会長	上田 悦子	
々	高木 正浩	
会計	丸山 正義	
々	久我かず子	
監事	筋 玉子	
々	櫻井 徳三	
総務部	久我かず子	
々	福田 照子	
広報部	岡田 利光	
々	木村 雍子	
々	佐藤 照子	
々	穂満 弘道	
研修部	寺本 恵美	
々	有田 政勝	
々	執行 正勝	
々	富沢 勝	
々	浜口 信義	
々	古川 好夫	
々	養輪 光正	
々	行武 政市	
野草部	犬島 正子	
々	大沢 博	
々	近田 トメ子	
々	斉藤 ヨシ	

平成18年度事業計画

事業名	1期			2期			3期			4期		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
定期総会	○											
会報発行	○			○			○			○		
講座・学習会	郷土史講座							○				
	町内史跡巡り				○							
	史談会		○	○		○	○		○			○
	古文書学習研究会		○		○	○	○		○	○	○	
研修・見学会	県外見学会				○							
	日帰り見学会			○							○	
	名勝探訪	○				○			○			○
野草の会	七草粥食べる会		○									
	野草観察会				○				○			
創立30周年記念行事										○		
役員会・運営委員会	○	○			○			○			○	

【講座紹介】

研究会



今期より新講座を発足させます。会員の中の有識者が、日頃、調査研究され蓄積されてきた学識を、他の会員にも教示していただくという趣旨です。

第一回研究会は酒々井町にある国の重要史跡、本佐倉城跡の城主であった千葉氏について、皆様と一緒に学びたいと考え、浜口信義氏に講師をお願いしました。

多数の参加お待ちしております。

「千葉氏の研究」

千葉氏の源流

浜口 信義

① 桓武天皇とその時代

千葉氏のルーツは桓武天皇で、天皇は平安京を建設し以後ここを「都」と定め鎌倉幕府が出来るまでの平安時代が始まった。この時代に新しい宗教として最澄が天台宗を比叡山に開き、空海が真言宗を高野山に開いて、後世の仏教界の基礎を作った。

また天皇は三人の皇子を常陸太守・上総太守・上野太守（この三国の国司は親王を任命し太守と称し

た）に任命しており蝦夷対策と東国（あづま）対策を重要課題とした。これら古代、中世の関東と、これに関連する東北地方の歴史を調べ、知ることによって関東武士団の形成や活動を知る助けになればと思います。

古文書を読む会

「島田家文書」の寛政五(丑)年の一年間の読合せが終わりました。

内容は野馬牧の仕事の丸一カ年でした。上役人(代官)と下役人との関係、慣例。牧士の仕事、野馬捕り、払い下げ。土手普請人足、牧士の地位、俸禄。犬防用鉄砲貸与証文など興味が尽きません。

同年代に同じような内容の「岡田家文書」がありますので四月十八日を第一回として勉強したいと思えます。

史談会

十五年二月に始まった「古今佐倉真佐子」がこの三月で終了しました。

今まで学んだ事を思い起こしながら佐倉を散策してみても如何でしょうか。

次回からは「和田のむかし」という新しい題材にかかります。

酒々井の隣の和田について、古くからの遺跡・仏閣や行事など色々な視点から勉強したいと思います。

傷害保険のことについて

郷土研究会では行事のうち名勝探訪・町内史跡巡り・野草観察会などで外歩きや酒々井町外に出かけるときは行程で、怪我や毒虫さされなどで、医療を受ける事態を想定して「レクリエーション保険」に加入しておりました。が、保険会社が当該の保険は取り扱わなくなりましたので、郷土研究会としては行事に対する保険加入が出来なくなりました。

総務部

郷土研日誌		
月日	内容	参加者
17・12・24	会報印刷	4
12・27	会報発送	19
18・1・18	名勝探訪明治神宮方面	29
1・21	運営委員会	19
1・27	總會資料作成	19
1・29	第30回定期総会	45
2・1	会報打合	5
2・4	研修部会	7
2・9	七草粥準備	5
2・10	七草粥を食べる会	92
2・21	古文書を読む会	8
2・24	運営委員会	21
	会報編集	5
3・4	史談会	13
3・7	会報編集	6
3・8	日帰り見学会夷隅方面	29
3・14	会報校正	5
3・22	会報校正	5
3・24	会報校正	6

見学

案内

春の野草観察会

四月二十五日(火)

雨天中止



今回は例年より十日近く遅い日に  
しました。気まぐれな季節の移り変  
わりはどんな草花を見せてくれるの  
でしょうか。

絵の好きな方はスケッチブックを  
写真の好きな方はカメラを、俳句や  
短歌をたしなむ方は短冊を、又、お  
手持ちの野草図鑑を片手に墨方面へ  
の観察会をお楽しみください。

県外見学会

仙台方面

五月九日(火)〜十日(水)

宿泊 松島簡易保険

保養センター

電話 0225・88・3411

杜の都、仙台周辺を旅します。

国府のあった多賀城跡の見学を最  
初に、松島で瑞巖寺・五大堂を拝観  
し、奥松島にある「かんぼの宿」に  
宿泊。翌朝一番に観光船で嵯峨溪を  
探勝していただき、杜の都仙台市内

にある瑞鳳殿・大崎八幡宮を参拝し  
て帰ります。海と杜でリフレッシュ  
してください。ご参加お待ちしております。  
ります。

《多賀城跡》

約一二七〇年前、東北地方の政  
治と文化、軍事の中心地として  
国府と鎮守府が置かれた地。現  
在は政庁の礎石や正殿の基壇が  
残っている。ガイドの方の説明  
があります。

《瑞巖寺》

伊達家の菩提寺。法身禅師によ  
り開かれた寺で、現在の建物は  
伊達政宗が再建したもの。中室  
など国宝に指定されています。

《五大堂》

坂上田村麻呂の東征の折に建立  
され、その後慈覚大師が五大明  
王像を安置したことから五大堂  
と呼ばれ、現在の建物は伊達政  
宗が再建した。単層宝形造りで  
桃山建築の特徴がよく表れてい  
ます。

《嵯峨溪》

岩手県梶鼻溪、大分県耶馬溪と  
並ぶ三大溪の一つ。遊覧船で奥  
松島宮戸島の東南端室浜から萱  
野崎までの約二軒の海と太古の

島々の織りなす男性的なパノラ  
マは、驚きと感動の約四十分の  
観光です。

《瑞鳳殿》

寛永十三年(一六三六)に七十歳  
で生涯を終えた伊達政宗公の御  
廟で、桃山様式の威風を伝える  
豪華絢爛な廟所。国宝に指定さ  
れたが、昭和二十年(一九四五)  
に焼失した。平成十三年に完全  
修復され当時の姿に甦っていま  
す。

《大崎八幡宮》

極彩色の彫刻と黒漆に金の飾り  
金具の壮麗な桃山文化を伝承す  
る豪華な神社。伊達政宗が造営。  
現存する数少ない遺構の一つで  
四〇〇年近く経っても色褪せな  
い華やかさを保っています。

名勝探訪

小石川方面

六月六日(火)

雨天代替 六月九日(金)

爽やかな時季、水道橋駅を降りる  
と目の前に大きな東京ドームや小石  
川後楽園があります。  
もと水戸藩上屋敷の庭園で水戸光

園が神田上水を導入して造られた庭園、名称は中国宋の「岳陽樓記」の一節からとったもので、中国の山水風物を模し、美しい滝や溪流からなっています。

また、桜や梅など四季それぞれに美しい花が咲く小石川植物園にも行きます。和風庭園や温室、本郷から移築された旧東京医学校などがあり、野鳥の宝庫でもあります。のどかなさえずりを聞きながら一日のんびりと散策してみませんか。

町内史跡巡り

上岩橋方面



五月十四日(日)

雨天中止

五月空の下、上岩橋(上郷・大崎)方面を一日散策してみました。

この地区は神社や仏像・絵馬など古くからの物がたくさん残っています。菊賀神社の拝殿が新しく建替えられました。ご存知でしたでしょうか一緒に参拝しましょう。

また、いくつかの石造りの「みちしるべ」もありますので、見て廻りたいと思います。多数の御参加をお待ちしております。

《妙楽寺》

常清山妙楽寺は上岩橋字宝作(ほうさく)にあります。日蓮宗中山法華経寺に属し、本尊は日蓮聖人(でんてい)奠定の大曼荼羅です。

《長福寺》

阿弥陀山長福寺は上岩橋字西井戸にあります。真言宗大仏頂寺の末寺で、本尊は阿弥陀如来です。神仏混交時代は菊賀神社の別当寺となっていました。現在は無住寺となっています。県文化財の木造阿弥陀如来坐像と木造持国天・多聞天立像があります。

《駒形神社》

駒形神社は上岩橋字天神原にあります。

《菊賀神社》

菊賀神社は上岩橋字中山の三方が水田に面した台地の突端、上郷地区から伊篠新田に通じる道路の右側の高い石段を登った所に鎮座しています。神仏混交時代は真言宗長福寺の支配下でした。社殿の裏には大日如来坐像が残っています。

上岩橋の双体道祖神は神社の

石段下左側にひっそりと祀られています。

《石造追分不動道標》

この道標は旧成田街道、トケ崎(とけさき)の三叉路にあつたので、追分不動と呼ばれ、信仰と道標との二つの役割を果たしていました。

あとがき

今年の確定申告(納税)に際しては、多くの皆様が、殊のほか増税感をお持ちになつたのではありませんか。そんな鬱陶しい気分を打ち消すような桜花爛漫の四月を迎えます。

今年度には力強く、着実な景況の回復を期待したいものです。さて、我が郷土研究会は、今期も積極的な活動を企画しています。

役員・委員等の自己研鑽の意を込めて、「研究会」を発足させました。「史談会」と「古文書を読む会」は、いずれも今期から新しい題材となります。勿論、野草観察をはじめ県外見学、史跡巡り、名勝探訪など野外での活動もしっかりと企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。

## 郷土研行事案内

平成18年4月～6月

	4 月	5 月	6 月
史談会	休 講	6日(土) 13:00 中央公民館会議室 集合 「和田のむかし」① 『和田ふるさと館』見学) 講師：高橋健一先生	3日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」② 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	4 月 18日(火) 13:30 中央公民館研修室 「岡田家文書」① 講師：青木朝次会長	5 月 16日(火) 13:30 プリミエール酒々井 「岡田家文書」② 講師：青木朝次会長	6 月 20日(火) 13:30 プリミエール酒々井 「岡田家文書」③ 講師：青木朝次会長
研究会	4月8日(土) 13:30 中央公民館学習室 テーマ 「千葉氏の研究」(第1回) 講師：浜口信義氏 (注) この研究会は、不定期に行われます。 第2回以降の日程は、8月と10月の第1土曜日を予定しています。		
野草観察会	4月25日(火) 雨天中止(当日の問合せ 8:20～8:50 犬島まで 集合時刻・場所 9:25 中央公民館 観察場所 墨、馬橋方面 観察後五良青年館にて昼食、勉強会。 参加費 100円 弁当、飲み物等各自持参 14:00頃現地解散		
県外見学会	「仙台方面」 5月9日(火)～10日(水) 参加費 25,000円 定員：40名 宿泊先 松島簡易保険保養センター(Tel. 0225-88-3411) 集合時刻・場所 6:20 中央公民館前広場 コース 第1日 公民館—いわき—本宮—白石(昼食)—多賀城跡—塩竈 —瑞巖寺—五大堂—奥松島—大高森展望台—奥松島(泊) 第2日 宿泊所—嵯峨溪(遊覧船)—塩竈—多賀城—仙台(瑞鳳殿 ・大崎八幡宮)—白石(昼食)—本宮—いわき—公民館 19:00頃帰着予定(コースに一部変更の場合あり) *キャンセル 実施日5日前まで、寺本( )へご連絡下さい。 《申込受付》 4月7日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー		
町内史跡 めぐり	「上岩橋方面」 5月14日(日) 雨天中止 参加費 100円 弁当・飲み物等各自持参 集合時刻・場所 8:30 JR酒々井駅東口(東酒々井側) コース JR酒々井駅東口…妙楽寺…長福寺…菊賀神社…駒形神社…大崎観音堂 …トヶ崎青年館(昼食)…追分道標…岩橋分校跡…二王みち…京成酒々井駅 (約7キロ) 15:30頃解散予定(コースに一部変更の場合あり)		
名勝探訪	「小石川方面」 6月6日(火) 雨天代替日 6月9日(金) 参加費 100円(別途入園料) 弁当・飲み物等各自持参 集合時刻・場所 8:10 京成酒々井駅 コース 京成酒々井駅—日暮里—水道橋…小石川後楽園…春日—白山 …小石川植物園(昼食)…白山—巣鴨—日暮里—京成酒々井駅 16:00頃帰着予定(コースに一部変更の場合あり)		